

## 〈解答〉

- ① 1 六  
2 ウ  
3 A 〔例〕松崎さんの以前の絵のほうがよい（15字）  
B 〔例〕画家のマティスマミたいに描かせる理由がわからなかった（25字）

配点 ① 1、2は各2点、他は各3点 10点満点

## 〈解説〉

- ①  
1 「松崎さんも／当然／その／中に／含まれて／いた」と文節に分けられる。  
2 傍線②にある「かなわんで（かなわないよ）」という言葉には、板谷の「自分の思い通りに事が運んでいない状況をやりきれなく思う気持ち」が表現されており、絵の才能を有する松崎さんに白井先生（マティス）の指導が集中するのはわかるが、それにしても松崎さん以外の生徒の指導が、あまりにおざなりになっているのではないかとという板谷の心情が込められた言葉となっている。傍線②の直後に「板谷は、あきれ顔で言っていた」とあるが、自分たちが「放ったらかし」にされていることに対する「やり場のない思い」が、板谷を「あきれ顔」にさせているのである。  
3 「首をかしげた（首をかしげる）」は、疑問や不審に思ったり、納得がいかなかったりした時に、首を傾げるさまを表し、本文の場合は、傍線③の直後にある板谷の会話文に「あのまま、なんでいけんのじゃろ」とあることから、「ホンモノの画家のマティスみたいな描け」という白井先生の指導に対し、納得がいかず、疑問に思う板谷の様子を描写していることがわかる。「前の松崎の絵のほうが、わしはええ思うんよ」と言っているように、板谷は、白井先生から指導を受ける前に松崎さんが描いていた「水彩絵の具のにじみを活かした、いかにも優しそうな絵」を高く評価しており、白井先生が、それを変えるよう厳しく指導する理由がわからなかったため、「首をかしげた」のである。